



「竹紙」が第 8 回エコプロダクツ大賞（エコプロダクツ部門） 農林水産大臣賞を受賞

当社製品「竹紙（たけがみ）」が、エコプロダクツ大賞推進協議会主催の第 8 回エコプロダクツ大賞（エコプロダクツ部門）において、最も優れたエコプロダクツとして、大賞である「農林水産大臣賞」を受賞いたします。



下記のとおり「竹紙」という当社独自製品の製造販売を通じての取り組みが、高く評価されたことを関係者一同光栄に存じます。

「放置竹林の問題」



かつて竹はタケノコや家屋、工芸品など日本人の食と文化に密着していましたが、近年では生活様式の変化等で竹の需要が激減した結果、竹林を管理する担い手が少なくなっています。そうした中、放置された竹林が隣接する森林まで侵食して荒廃させる問題が全国的に広がっています。

「竹紙への取り組み」

全国有数の竹林面積を誇る鹿児島県に川内工場を持つ当社では、1998 年より国産竹を製紙原料として有効活用する取り組みを続けています。原竹の伐採や運搬、原料チップの加工等、木材に比べ効率が悪くコスト面で不利な竹でしたが、自治体や、地域住民、チップ工場といった皆さまの協力を得ながら徐々に独自の集荷体制を築いてきました。



当初は竹パルプを 10%配合した製品を開発し、封筒や箸袋、コップ原紙といった用途で販売してきましたが、その後も工場設備の増強を行い、2009 年から国産竹 100%の紙を販売開始し、環境イベントのパンフレットやカレンダー、名刺やノート等に使用されています。



「本業を通じての貢献活動」

当社は日本の竹 100%を原料とした紙をマspro製品として取り扱う唯一の総合製紙会社です。竹紙の製造・販売という本業の中で、製紙原料として未利用材であった竹に新たな経済価値を付帯するとともに、竹林整備、隣接する森林や里山、生物多様性の保全に貢献しています。竹の新たな有効活用の一例として、放置竹林による問題を抱える自治体や林業従事者からは高い注目を集めています。